

事業の背景・目的

ツマアカスズメバチは環境適応性が高く繁殖力も強い侵略的な外来種として世界各地で生態系被害、養蜂業への影響、人への刺傷被害等を引き起こしており、我が国では、平成24年に長崎県対馬市で初めて侵入、定着が確認され、平成27年には特定外来生物に指定された。本事業では、以下2点を目的として、対馬市内におけるツマアカスズメバチの生息状況を把握し、巣の除去等の防除を実施した。

- ①個体数を減少傾向に転じさせ、対馬の固有な生態系を保全すること
- ②対馬島外の未侵入地域への拡散を未然に防ぐこと



ツマアカスズメバチ

事業の内容

(1) 営巣情報の収集、現場確認および営巣探索

市民等から寄せられるツマアカスズメバチの営巣情報を収集・整理し、これら情報に基づき種同定を含めて営巣状況の現場確認を行った。（対馬には固有亜種を含めた在来スズメバチ類が5種生息しており、外来種対策としてスズメバチ駆除を実施する上で種を確実に同定することが重要であるため）

また、現場確認と並行して、周辺で地域住民への聞き込みや目視によりツマアカスズメバチの営巣探索を実施した。

【巣の確認数：358個】

(2) ハチ個体の捕獲および巣の除去

外来種駆除の観点から巣の除去にあたっては、ハチ個体、特に女王バチを逃がさずに巣内に残ったままの状態でも巣を除去することが肝要であるため、巣からハチ個体が飛散しないように可能な限り巣を刺激せずに巣入口を塞いで上で、殺虫剤を巣内部に注入して巣内部で確実にハチ個体を弱体化させ、厚手のビニール袋等で巣全体を覆い巣とハチ個体を除去した。

【巣の駆除数：189個】



ツマアカスズメバチ巣

得られた成果

平成30年度に対馬市内で確認されたツマアカスズメバチの巣358個のうち、本協議会活動による巣駆除数が189個、その他主体による巣駆除数が28個となっており、本種の防除活動においては本協議会が中心的な役割を果たしていると評価できる。ただし、今年度に確認された本種営巣数は過去最多となったことから、減少傾向に転じさせることはできていない。

一方、島外に目を向けてみると、平成29年度に巣が確認された長崎県の壱岐島ではその後に巣が確認されておらず、定着の可能性は低いことから、対馬島外の未侵入地域への拡散防止という観点からは一定の成果を上げているものと評価できる。

今後、対馬島内で本種の低密度化を図る上では、巣の駆除を中心とした物理的防除だけでなく、繁殖を抑える薬剤を用いた化学的防除の展開など、新たな防除手法も含めてより一層の厚みと広がりをもった防除活動を展開していくことが求められる。